

6章まとめ

1. 幼児・児童における未来型能力	必要な能力	異文化理解・多文化共生
	なぜ未来型能力か？	<p>・今日においても、またこれからの時代においても、言語や文化の背景の異なる人々とともに暮らしていく術を模索することは、私たちにとって喫緊の課題</p> <p>・将来、教育者となる大学生が、異文化理解能力を高めることは大切であり、在住外国人が増加している日本で、外国人や異文化と関わらなく生活することは不可能である。また、国際化が進んでいる現在、異文化を知り、自文化を知ることは重要である。</p>
	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	育成方法の提案・実施	マイノリティ文化の学習やマイノリティ者の体験に接することなどを通じて多文化共生社会の構築に向けた日本各地の実践を報告した。
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	
	育成方法の提案・実施	大学生の短期留学を通じた異文化体験
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	<p>大学生の留学前後の態度を比較、留学後の変化に関する聞き取り調査を実施。</p> <p>留学後、</p> <p>①英語に対する抵抗感がなくなる、</p> <p>②経験から文化の違いを学ぶ力を身につける、</p> <p>③自文化に対する興味が強くなる、</p> <p>④他人を助けることに興味をもつ、</p> <p>⑤自分とは違うものがあるということが理解できる</p> <p>といった変化が見られた。</p>